

タイトル:平成 25(2013)年度 研究セミナー

日程:平成 25 年 12 月 13 日(金)～15 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「アメリカの親ユダヤ政策、イスラエル建国に対するサウディアラビアの対応、1945 年–1949 年」

近藤 重人 (慶應義塾大学大学院)

この度は三日間にわたる大変充実した中東☆イスラーム研究セミナーに参加させて頂き誠にありがとうございました。お世話になった AA 研の先生方、そしていろいろな刺激を与えてくれた受講生の方々に深く感謝しております。

私は「アメリカの親ユダヤ政策、イスラエル建国に対するサウディアラビアの対応、1945 年–1949 年」と題して発表をさせて頂きました。私が現在研究を進めている博士論文のテーマは、湾岸産油国と中東紛争(アラブ・イスラエル紛争)の関係史であります。今回発表させて頂いた内容はその第一章にあたるものです。イスラエル建国支持に代表される当時のトルーマン米大統領の対パレスチナ政策に対して、アブドゥルアジーズ国王をはじめとしたサウディアラビアの政治指導者がどう反応したのかという点を、サウディアラビアの公文書などに依拠しながら論じました。国王やファイサル王子は、トルーマン大統領が親シオニスト的な対パレスチナ政策を打ち出すたびに書簡や面会などを通じて強く抗議し、時にはサウディアラビアにある米石油利権への影響を示唆しました。結局、両国間の友好関係を害することがサウディアラビアの安全保障にとって得策ではないと考えた国王の判断によって、言葉以上の反発は見られませんでした。1940 年代後半を通じてサウディアラビアの内外でアメリカの政策に対する大きな反響があった点は明らかにできました。

本報告に対して様々な貴重なコメントを先生方から頂くことができました。その中には、トルーマン大統領の政策をどう形容するかという指摘、博士論文全体の議論の軸をどう組み立てるかといういくつかのご助言、また不慣れであったアラビア語の転写法に至るまで、十分な時間をかけて極めて有益なご指摘を数多く提供して頂きました。司会を務めて頂いた錦田先生、コメントを下された飯塚先生、黒木先生、高松先生をはじめ全ての先生方に深く御礼申し上げます。

また、教育セミナーの時も同様でしたが、やはり他の受講生の方々、また「私の博士論文」についてご発表頂いた藤波先生のご発表にいろいろ刺激を頂きました。問題へのアプローチ法が異なる点については興味深く学ばせて頂きましたし、また博士論文執筆に際して抱えている悩みなどについても共有することができました。総じて大変実りの多いセミナーでありました。重ね重ね先生方、そして千葉様に深く感謝申し上げます。